

Edvard Munch

ムンク展 The Decorative Projects

ノルウェーの画家エドヴァルド・ムンクは、日本でもすでに数多くの展覧会が開かれ、愛と死、喜びと絶望といった「人間の魂の叫び」とも呼べるテーマを描いた作品が、非常に高い人気を得ています。彼は自らが描いた作品のなかでも、最も中心的な諸作品に〈生命のフリーズ〉という名をつけました。それは、個々の作品をひとつずつ独立した作品として鑑賞するのではなく、全体としてひとつの作品として見る必要があると考えたからでした。しかし、彼が〈生命のフリーズ〉という壮大なプロジェクトによって達成しようとしていたことは、「愛」「死」「不安」といった主題からの切り口だけでは捉えきれないものです。なかでも最も見過ごされてきたのが、その「装飾性」です。今回の展覧会は、ムンクの作品における「装

飾」という問題に光を当てる世界でも初めての試みで、オスロ市立ムンク美術館などからの代表作108点を一堂に展覧します。

本展は、ムンクが試みた装飾プロジェクトにそれぞれ1章をあてて構成され、彼の「装飾画家」としての軌跡を辿れるものとなっています。第1章では〈生命のフリーズ〉における装飾性の展開を扱い、それに続く各章では、アクセル・ハイベルク邸やマックス・リンデ邸といった個人住宅の装飾や、ベルリン小劇場、オスロ大学講堂、フレリア・チョコレート工場、オスロ市庁舎の壁画構想といった公的建築でのプロジェクトを紹介します。

第1章 〈生命のフリーズ〉:装飾への道

1	吸血鬼	1893-94年
2	灰	1925-29年
3	メランコリー、ラウラ	1899年
4	橋の上の女性たち	1935年頃
5	ある男(地獄の門より)	1925年
6	不安	1894年
7	絶望	1893年頃
8	豊饒	1902年
9	サクラメント	1915年
10	赤と白	1894年
11	女性、スフィンクス	1893-94年
12	メタボリズム	1899-1903年
13	生命のダンス	1925-29年
14	声/夏の夜	1893年
15	吸血鬼	1916-18年
16	別離	1896年頃
17	赤い蔦	1898-1900年
18	死の苦しみ	1915年頃
19	裸の男女	1913年
20	ゴルゴタ	1900年
21	宙空での出会い	1925年
22	装飾のための下絵	1925年
23	装飾のための下絵	1925年
24	屍臭	1898-1902年
25	泉(習作)	1915-16年
26	浜辺の裸の男女	1907年
27	諷刺画	1906-08年
28	嫉妬、庭園にて	1916-20年
29	オースゴールストランのポート	1905年頃
30	星月夜 I	1922-24年
31	病める子供	1925年

32	浜辺の接吻/月明かりの接吻	1914年
33	〈生命のフリーズ〉による装飾のある部屋のためのスケッチ	1902-07年
34	〈生命のフリーズ〉の展示のためのスケッチ	1910-16年
35	〈生命のフリーズ〉のためのスケッチ:「抱擁」「生命のダンス」「目の中の目」	1910-16年
36	〈生命のフリーズ〉のためのスケッチ:「二人の女性」「声/夏の夜」	1910-16年
37	〈生命のフリーズ〉のためのスケッチ:「灰」「メタボリズム」「吸血鬼」	1910-16年
38	〈生命のフリーズ〉のためのスケッチ:「メランコリー」「嫉妬」	1910-16年
39	〈生命のフリーズ〉のためのスケッチ:「叫び」「女性」「森の法話」	1910-16年
40	〈生命のフリーズ〉のためのスケッチ:「死んだ母親と子供」「病室での死」「サクラメント」	1910-16年
41	象徴的な習作	1893-94年
42	死と乙女	1894年
43	樹木によりかかる女性	1895-97年
44	女性/スフィンクス	1895年
45	スフィンクス	1896年
46	アウグスト・ストリンドベリ	1896年
47	マドンナ	1894年
48	マドンナ	1895年
49	陽気な死者(シャルル・ボードレールの『悪の華』の挿画下絵)	1896年
50	腐屍(シャルル・ボードレール『悪の華』の挿画下絵)	1896年
51	腐屍(シャルル・ボードレール『悪の華』の挿画下絵)	1896年
52	生と死(『腐屍』のためのスケッチ)	1896年
53	時間、世界、結婚	1893年
54	病める子供	1894年
55	乙女と心臓、別離、サロメ	1895-96年
56	灰 I	1896年
57	諷刺画	1916年頃
58	「カンカン」「乙女と心臓」のための下絵	1893-95年
59	庭の彫刻	1896年
60	装飾的スケッチ	1897-98年
61	三つの装飾的スケッチ	1899年頃
62	家屋装飾のためのデザイン	1920-25年

第2章 人魚:アクセル・ハイベルク邸の装飾

63	浜辺の人魚	1893年
64	人魚	1896年
65	月の前の人魚	1892年

第3章 <リンデ・フリーズ>:マックス・リンデ邸の装飾

66	公園で愛を交わす男女 (リンデ・フリーズ)	1904年
67	公園の夏 (リンデ・フリーズ)	1904年
68	浜辺の木々 (リンデ・フリーズ)	1904年
69	果物を収穫する少女たち (リンデ・フリーズ)	1904年
70	浜辺の若者たち (リンデ・フリーズ)	1904年
71	浜辺のダンス (リンデ・フリーズ)	1904年
72	花に水をやる少女たち (リンデ・フリーズ)	1904年

第4章 <ラインハルト・フリーズ>:ベルリン小劇場の装飾

73	浜辺の出会い (<ラインハルト・フリーズ>のための習作)	1906-07年
74	果物を収穫する少女たち (<ラインハルト・フリーズ>のための習作)	1905年
75	浜辺の三人の少女 (<ラインハルト・フリーズ>のための習作)	1905-06年
76	泣いている女 (<ラインハルト・フリーズ>のための習作)	1906年

第5章 オーラ:オスロ大学講堂の壁画

77	太陽 (習作)	1912年
78	人間の山	1909年
79	歴史	1914年
80	歴史	1914年
81	歴史 (オスロ大学講堂壁画のための習作)	1909年
82	アルマ・マーテル	1914年
83	アルマ・マーテル	1914年

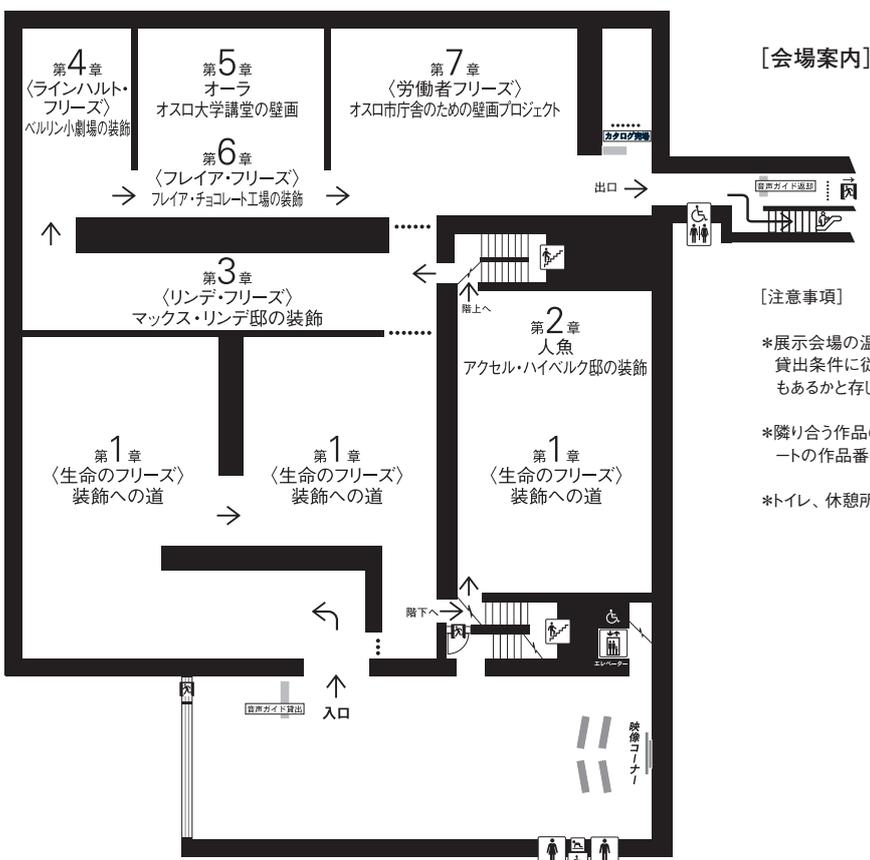
第6章 <フレイア・フリーズ>:フレイア・チョコレート工場の装飾

84	工場からあふれ出す労働者たち	1921年
85	柵越しのおしゃべり	1921年
86	学生広場で	1921年
87	グレンセオーセンへの小旅行	1921年
88	娘に出会う機械工	1921年
89	トリニティ教会	1921年
90	森へ向かう子供たち	1921年
91	別れ	1921年
92	豊饒	1921年
93	家の前の幼い子供たち	1921年

第7章 <労働者フリーズ>:オスロ市庁舎のための壁画プロジェクト

94	雪の中の労働者たち	1909-10年
95	雪の中の労働者たち	1910年
96	疾駆する馬	1910-12年
97	労働者と馬	1920年頃
98	家路につく労働者たち	1920年
99	雪かきをする男たち	1929-33年
100	雪の中の労働者たち	1910年
101	労働者たち	1909年
102	雪の中の労働者たち	1929年
103	建設現場の二頭の馬 (オスロ市庁舎)	1928-29年
104	オスロ市庁舎の建設	1929年
105	オスロ市庁舎の建設	1930-31年
106	建設現場で雪かきをする人々 (オスロ市庁舎)	1930-31年
107	建設現場の労働者たち (オスロ市庁舎)	1930-31年
108	建設現場の馬 (オスロ市庁舎)	1931年

作品の所蔵先は以下を除きすべてオスロ市立ムンク美術館。
ステーション美術館 (no.79)、国立西洋美術館寄託 (no.95)、オスロ国立美術館 (no.98)



ムンク展
2007年10月6日—2008年1月6日

編集:横山佐紀
© 2007 国立西洋美術館